

# 病児保育奮闘記

(17)

子どもサポート H&K  
大石 仁美

## コミュニケーション不足が

### 事故を呼ぶ！

当施設は今年で15周年を迎えました。ほそぼそと、潰れずによくやってきたなあと感慨深いものがあります。子どもが好きで、楽しいからやってこられたのですが、失敗がなかったかというウソになります。

自分の失敗談を語るには、ユーモアや冗句を被せて笑い飛ばせばいいのですが、でも仕事上のあつてはならない失敗は事故につながりますからそうはいきません。

どんなことがあったのか事例をきちんと整理し記録しておくことは、職業人としての誠意とけじめであり、また今後に向けての大切な指針になると思うので、勇気を出して書き記しておくことにします。

#### 階段からの転落事故一件

部屋にはすべて引き戸の上部に鍵をつけています。つまみを回せばカチッと引っかかるだけの簡単なものです。子どもには届かない場所なので、大人が出入りの際にきちんと鍵をかけることを忘れなければ、子どもが自由に移動することはありません。感染防止のため、病気ごとに部屋を分けることもあり、部屋ごとの鍵は重要です。特に保育室は二階にあるため、階段に通じる戸の施錠は転落防止のため忘れてはならないものです。

これらは保育者全員の共通認識です。

ところが、一歳児が階段から転落するという事故が起きてしまいました。

ほんの数秒階下にもものを取りに行くだけ。他の保育士が部屋にいるのでたぶん大丈夫。そんな安易な気持ちで事故につながったのです。子どもの行動は予測がつかないことが多いです。他の保育士だってその子を見ているとは限りません。おむつ替えの途中だったら急な動きに対応出来るはずがありません。

少なくとも部屋にいる保育士さんに「ちょっとだけ一階に物を取りに行ってきます。」と声掛けしていたら、この事故は防げていたでしょう。もちろん面倒がらずにロックするのが原則ですが。

幸いなことにこの子はおしりから滑るように落ちたので、おむつがクッションになり、打ち身のあともなく、びっくりして泣いただけで済みました。すぐに電話で保護者に報告をし、当日の夜、仕事を終えてから当事者と一緒に、謝罪とその後の様子伺いに家庭訪問しました。ご両親は至極恐縮されて、「こんな遠いところまで申し訳ない」と気が動転しているこちらの気持ちを労わってくれました。気が重くても行ってよかった！一仕事終えたすがすがしい気持ちで帰ったことが心に残っています。

#### 鍵掛け忘れでもう一件

お母さんのお迎えで、子どもを抱っこして、一階を下り、引き継ぎをしていた時のことです。もう一人の

子どものお母さんがお迎えに見えました。

お迎え時間が重なってしまったので、少しお待ちいただくことになりました。ところが二階で母親のお迎えを今か今かと待っていた五歳の子どもは、母親の声を聞きつけて階段を駆け下り、引き継ぎ部屋に入ってきてしまったのです。「あっ、入っちゃダメ！」でもすでに遅し。その子は水痘で隔離していた子で、単なる風邪の子と、一瞬でも同じ部屋になってしまったのです。

どうか他の子に感染していませんように！祈る気持ちで二週間が経ちました。でも、とうとう恐れていたことが本当にやってきたのです。

### おそるべし！空気感染！

あまりに申し訳なくて、保育料は無料にしますと申し出たのですが、「いえいえ、いずれ雇うと思えば今雇っても同じですからご心配なく」といってくださいました。なんとという優しいお言葉！こんなに物わかりのいい親御さんはそうそういるわけがありません。申し訳なさや恥ずかしさで心苦しい気持ちが優しさに救われました。有難かったです。

この後、階段出入り口の戸に**必ず施錠！**と札を張り付けたのは言うまでもありません。

### 食物アレルギーの怖さ

食物アレルギーの子は多いです。過去にアナフラキシーショックを起こしたことが有る等聞くと、その状況を思い浮かべるだけで、身震いがします。親御さんはきっとパニックになって大変だったことでしょう。そういう子どもを持つ親御さんはたいがい、食事持参で来られます。私たちにとってもその方がありがたいし安心です。でも急なお迎えの時もありますから、普段から食品には気を配り、加工食品は極力使わないようにしています。

アレルギーを起こす食品はいろいろありますが、特に乳幼児に怖いのはミルクアレルギーです。これによるショックは時々聞かれるところです。それと数が多いのが卵です。で、牛乳と卵は一歳を過ぎるまではどの子にも使わないことに決めています。

過去のアレルギーのある子の顔を思い浮かべると、親御さんの苦勞が思われて、いろいろ大変だったろう

なあと頭が下がります。特に、牛乳、卵、小麦、サバ、マグロ、エビ、トマト、こいも等、何種類ものアレルギーを持っている子の、食事を作る母親のストレスはいかばかりでしょうか。お父さんはじめ他の家族の皆さんに、お母さんのストレスを少なくしてあげられるよう、優しく労わってあげて欲しいものです。

### まさかの失敗

子どもたちのおやつは、値段に関係なく、頂いたものも含めてその日の果物盛り合わせと決めています。バナナ、りんごが多いですが、季節によりスイカ、メロン、いちご等が入ることもあります。果物嫌い、または果物アレルギーの場合は焼き芋になります。ところが続けて数日利用する子がいる場合、本人の希望を聞いて、変化をつけることもあります。

その日はホットケーキをつくって出すことになりました。もちろん卵と牛乳入りです。一人卵アレルギーのA子ちゃんがいまいましたので、ホットケーキが渡らないよう気をつけなくてはなりません。よくわかるように皆とは別の盆にA子ちゃんのおやつをセットしておきました。

一人ずつお皿に盛り、準備をしてから、翌日の足りない食品の買い出しに出かけました。おやつは私が帰ってから出すつもりでした。ところが帰ってみると、キッチンに準備してあったおやつがありません。一皿のフルーツだけを残して。

ん？？？どうということ？不思議に思いつつ二階の保育室に入ると、「みんな早く起きたので、早めのおやつにしました」と保育士さん。

「A子ちゃんのおやつが残っていたけど？」

「あらどうしよう！変だなとは思ったんですけど」

「A子ちゃんにもホットケーキ食べさせたのね」

「はい。どうしましょう」

うろたえる保育士さんを見て怒る気にもなりません。ショックは私の方でした。ひとこと、ここにおやつを準備しておくね。これがA子ちゃんのと伝えておけばよかったです。分かっているつもり、自分がするつもり。この**“つもり”**がいけないのです。

いまさらながらコミュニケーション不足が引き起こす落とし穴の怖さを思い知りました。

すべては私の責任です。腹をくくって、すぐ動ける

よう A 子ちゃんの観察をはじめました。10分、30分、1時間経過。A 子ちゃんは元気に遊んでいて、なにともありません。身体になんの変化も起きていません。ほっとしながらも、お母さんのお迎えを待ちました。

お母さんは「私が今まで、どんなに注意深く、苦労しながらこの子を育ててきたか分かりますか?!」と言って涙をこぼされました。本当に申し訳ありませんと謝るばかりでした。この日の保育料は無料にしてお帰り頂き、翌日、経過を教えていただくため家庭訪問。お母さんは昨日と打って変わって、穏やかな表情で「受診して卵が解除になりました。医師もそろそろいいかなと思っていたようで、よかったです。祖母が、隠されて言ってくれないより、本当のことをきちんと伝えてくれるところは信用出来るところだよと言っていました。私も本当にその通りだと思いました。これからもよろしくお願いします。」

このお母さんの言葉は、腹をくくった私への最高のご褒美でした。

翌日すぐにアレルギーと書いた少し大きめの印を注文しました。登録用紙に朱書きするだけでなく、すべての記録用紙に**アレルギーの朱印**を押すことにしたので。

事故はとんでもないところに、隙間をあけて潜んでいます。今まで大きな事故にならなかったのは、単に運が良かっただけにすぎません。ちょっとした思い込みやうっかりで、命にかかわる大事故になってしまうこともあるのですから、一つ一つの失敗を心にとめて、予防策を積み上げていく知恵と工夫が問われることになります。

### コミュニケーション不足を補う工夫

人間関係は、むつかしいものです。良いと思ってしたことが、かえって相手の心を傷つけてしまったり、また誤解されて、思わぬ結果を生むことだってあります。恥ずかしながら、私はストレートにものをいう人間なので、今までもそういうことは結構あったと思います。

もともと群れで行動するより一人でいるほうが好きなので、おしゃべりお婆さんの輪に入ることを避け

てきました。つまり雑談などしながら、まるやかな会話をする術を学んでこなかったのです。

いまさらこれを直そうとしてもごちないだけなので、個性として許してもらうことにして、こうしたクセを補うにはどうしたらいいのか、思いつくままに書き出してみました。

- ① 記録に目を通せばわかることでも、子どもの状況や注意してお世話をしなければならない点は、言葉できちんと保育者に伝えること（伝達の徹底）
- ② 保育者の仕事ぶりをみて、いいなあと思うことはその場で伝えること。例えば、子どもの遊びの様子をよく観察している。記録がとてもわかりやすい。上手に遊んであげている。等（プラス評価）
- ③ 足りない点は注意するより一緒に行うこと。そうすることで共に学びあえる。（共同作業）
- ④ 研修会に参加したメンバーは、報告会を行うこと。（知識の共有）
- ⑤ 昼食は子どもも大人も同じ食事をみんなで食べる。（食育と連帯感）
- ⑥ 年に一度は懇親会をもつ。（互いの理解を深める）
- ⑦ その他、個々が行っている活動や、関わっているイベントなどを紹介し、出来るだけ楽しんで参加する。

こうして書いてみると、なんだ、これは今までの職場や地域でやって来ていたことそのものじゃないですか。職員旅行、職場の球技大会、研修会、忘年会、新年会、新人歓迎会、送別会等々、すべてコミュニケーションを深めるための知恵だったのですね。

特に地域のお祭りや運動会などは、地域住民の結束を深める最大のイベントで、こうして先人たちの知恵が引き継がれて、歴史を作ってきたのだと思うと不思議な気持ちがします。

実際、面倒だと思ふことも多いのですが、人間関係が希薄になっていくばかりの現代だからこそ、人と人とのつながりをスムーズにする手立てを考え直す時かもしれません。また、今風の新しいやり方も探したい。

硬くなった感性を、柔らかくほぐす工夫が求められているようです。